

「今後の県立高校に関する地域検討会議（第4回）」記録要旨【盛岡ブロック②】

【盛岡市、雫石町、岩手町、紫波町】

平成28年1月25日（月）

県盛岡地区合同庁舎 8階 大会議室

【高橋 雫石町 総務課長】

- ・ 今回の再編計画案は、小規模校に対し配慮されていると感じている。雫石町では雫石高校の魅力化に向け、給食費や郷土芸能委員会への補助等、様々な助成をしている。今後も雫石高校の存続に向け支援をしていきたいと考えている。小規模校の充実のため特色ある教育を進めていただきたい。
- ・ 学科等の再編については、地域の産業に配慮し配置していただきたい。

【民部田 岩手町長】

- ・ 今回の再編計画案は、地域に配慮したゆるやかな計画であり評価したい。直近の入学者が「2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する」とあるが、沼宮内高校はこの対象になるのか。今回の統合は何を基準としたものか。
- ・ かつては、人口の増加によって新しい高校が作られてきた経緯がある。少子化が進んでいく中で、こうして設置した高校を統合し、地域の高校を残す視点もあって良かったのではないかと考えている。

【藤原 紫波町 副町長】

- ・ 再編計画案の14～15ページに専門高校や総合学科高校については、「地域の振興方向や産業構造、中学生の志望動向、高校卒業後の進路状況等を見据え、学科の改編及び系列の見直し等を検討します」とある。紫波総合高校の系列の見直しにあたっては、地域の置かれている状況を勘案し、早めに地域へ情報発信して納得が得られるようなかたちで進めていただきたい。

【松本 日専連盛岡 理事】

- ・ 高校再編にあたっては、安易に通学バスを手当てするのではなく、公共交通機関を利用して自分の力で通えるよう関係機関に働いていただきたい。
- ・ どの高校においても、高校教育の中で地域を愛し、社会性を身につけた人材を育ててもらいたい。

【岩崎 雫石商工会 事務局長】

- ・ 少子化が進む現状にあっては、高校再編はやむを得ないものと感じている。校舎制は3地区で導入予定となっているが、同じ市町村であれば比較的取り入れやすいものと思うが、市町村を越えて実施することが可能なのか。
- ・ 「入学者が2年連続20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する」とあるが、雫石高校が統合となった場合、秋田県から雫石高校に入学を希望している中学生が通学できないことが予想される。その辺についてどのように考えているか。

【八戸 岩手町商工会 会長】

- ・ 岩手町内の中学校卒業生の約半数は、盛岡市内の高校に進学している。町外への流出を抑えるため、沼宮内高校に新たな学科を設置する等、地域性を踏まえ、魅力ある高校づくりに努めていただきたい。

【富岡 紫波町商工会 副会長】

- ・ 紫波総合高校は平成32年度に4学級となるが、総合学科として果たす役割はあると考えている。
- （次頁に続く）

また、紫波総合高校のある地域は、公共交通機関にも恵まれており、今後、生徒数の増加も見込まれる地域であるので、中学校卒業予定者の様子を見ながら、柔軟に検討を進めてほしい。

- ・ 盛岡工業高校が平成 32 年度に学級減となるが、学科の設置をどのようにしていこうと考えているのか。県内の工業高校の中には、定員を割っているのに学級減にならない高校がある。学級減の基準についてどのように考えているのか。盛岡工業高校は工業高校のセンター校であり、生徒が減っていくからといって学級減をするのはいかがなものかと考えている。
- ・ 水沢工業高校と宮古工業高校も学級減となるが、これらの高校には、設備システム科、建築設備科があり、学級減で学科が無くなることは産業界にとって大きいものがある。

【中村 盛岡市 P T A 連合会 事務局長】

- ・ 再編計画の 4 つの視点に基づき、高校教育の充実を図っていただきたい。特に、教育の機会の保障も大事な視点と考えており、学びたい生徒がしっかりと学べるような高校配置を進めてもらいたい。

【坂井 雫石町立雫石中学校 P T A 会長】

- ・ 今回の再編計画案は、多くの方々の意見を取り入れ、学校を存続させたものとなっており評価している。雫石町内の中学校卒業者の多くは、盛岡市内の高校に進学している。雫石高校も魅力ある高校として頑張っているが、生徒たちの志望もありなかなか難しいところである。
- ・ 今回の再編計画と私立高校との関係はどのようになっているのか。

【小澤 岩手町 P T A 連合会 会長】

- ・ 今回の再編計画案は、小規模校に配慮されたものとなっており評価している。
- ・ 経済的な面で地元の高校に入学する生徒もおおり、高校があることによって地域の活性化にもなるので、地域の高校は存続させてほしい。

【千葉 盛岡市教育委員会 教育長】

- ・ 高校再編を進めるにあたっては、岩手の高校教育の目的である自立した社会人としての資質を有する生徒の育成が最も大事な視点である。今回の再編計画案は、この基本理念をしっかり踏まえ、多くの方々の意見を可能な限り取り入れたものになっていると感じている。
- ・ 今後、これをいかに実施していくかが問われると思う。地域により状況が異なることから、地域との意見交換を十分行いながら柔軟に対応していただければありがたい。
- ・ 岩手の高校教育の目的は、義務教育においても必要とされるものである。こういうことを念頭に、さらに高校と連携を密にしながら取り組んでいきたい。

【吉川 雫石町教育委員会 教育長】

- ・ 今回の再編計画に盛り込まなくても良いが、例えば、雫石高校の校名を盛岡西高校とかに変更すれば、志願者が増えるのではないかと考えている。
- ・ 普通科では高校の魅力を出すのは難しいところがある。例えば、雫石町の豊富な森林資源を活用し、林業科等の専門学科を設置するとなれば、高校の魅力を高めることが可能になるのではないかと考えている。後期の再編計画に盛り込んでいただければありがたい。

【平澤 岩手町教育委員会 教育長】

- ・ 高校標準法では、1 学級の定員を 40 人としているが、現在は、全国的に生徒数が減少している。少人数学級の導入について、それぞれの立場の方々が一緒になって国に働きかけ、改善をしていくべきと考えている。
- ・ 望ましい学校規模を原則 4 ～ 6 学級としているが、これ以外の高校は統合していく考えなのか伺いたい。

(次頁に続く)

- ・ 望ましい学校規模の維持に努めるものの、一定の規模が維持できない場合は統合するとあるが、この考え方によると、小規模となる高校の統合を認めることになるがこれで良いのか。
- ・ 今後、学級減で1学級となった場合、1学級校として取り扱うのか、学校の最低規模としている2学級を割ったとして統合を進めるのか伺いたい。

【侘美 紫波町教育委員会 教育長】

- ・ 今回の再編計画案を支持したい。高校教育は、生徒の社会性や協調性をはぐくむため一定の規模が必要であると考えている。
- ・ かつて、高校を選択する際に、入れる高校から入りたい高校にというキャッチフレーズがあった。各学校が部活動や学習活動の面で特色を出していただき、中学生に選択されるような魅力ある高校にしていなければありがたい。
- ・ 紫波総合高校には様々な系列があり特色ある取り組みをしているが、もっと進学に重点を置いた系列に力を入れていただければ、地元の中学生へのアピールにつながると思う。

【杉本 盛岡市中学校長会 会長】

- ・ 少子化をデメリットではなく、メリットとして捉え、1学級の定員を柔軟に設定することも大事ではないかと考えている。
- ・ 定時制・通信制高校については、様々な課題を抱えている生徒にとっては必要な高校であると感じている。
- ・ 専門高校については、県や地域の産業等を考慮し再編していくことが大切ではないか。総合学科については、復興教育が岩手の教育の柱になっていることもあり、例えば、沿岸部に防災を学べる系列を設置することも検討しても良いのではないかと考えている。
- ・ これからも地元の市町村との連携を密接にしていいただければありがたい。

【県教委】

- ・ 「直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する」という統合の基準については、特例校である3校と現在の1学級校が該当するものである。
- ・ 2学級校を学級減する場合、統合となるのか1学級校となるのかについては、既に1学級校が4校存在していること等も考慮し、前期計画では統合ではなく1学級校にするとしたものである。1学級校については、後期計画を策定する際に統合も含めあらためて検討していくことになる。
- ・ 校舎制については、1学年2学級規模の維持が困難と予想される専門高校の機能を生かすことと、学校を存続させることを狙いとして提案させていただいているものである。
- ・ 統合の基準について、前期計画では地方創生の取り組みを進めていること、地域の存続に対する意見を多くいただいたこと等から、学級減を中心とした案をお示しした。後期計画では、盛岡市内においても高校の小規模化を避けるため、統合も視野に入れ検討していかなければならないと考えている。
- ・ 総合学科高校の系列見直しについては、計画策定後に現在の系列を基本としながら学校を中心として検討していくことになる。
- ・ 他県からの入学者について、仮に雫石高校が統合となる場合は、秋田県と意見交換しながら対応していくことになる。
- ・ 私立高校との関係については、県の私学担当を通じて、私学協会の代表者の方々と今後の生徒減への対応等の意見交換をしている。

(次頁に続く)

- ・ 盛岡工業高校の学級減については、計画策定後に具体的な学科の在り方を学校と十分意見交換しながら検討していくことになる。その他の工業高校の学科についても、地域の産業方向と県全体のバランスにも配慮しながら配置を検討して参りたい。
- ・ 林業科の設置については、当ブロックでは、盛岡農業高校の環境科学科に林業について学ぶ科目を設置しているところ。新たな学科の設置については、生徒の進路先等も十分考慮し検討していかなければならないと考えている。
- ・ 1学級の定員については、昭和37年から41年までは1学級50人、昭和42年から平成4年までは、1学級45人、平成5年から1学級40人となっている。平成17年までは、国において教職員定数の改善計画があったが、その後は無い状況である。教職員定数の改善については国に対して要望を続けているところであり、今後、状況の変化があれば、少人数学級についてあらためて検討していきたい。
- ・ 望ましい学校規模及び学校の最低規模については、生徒の学ぶ環境を考え1学年4～6学級としているものであるが、一方、教育の機会の確保も必要ということもあり、特例として1学年1学級を最低規模として維持するとしている。特例校であっても、1学年20人以下となる場合には、地域の取り組みも考慮しつつ統合を検討するとしているものである。

【富岡 紫波町商工会 副会長】

- ・ 盛岡工業高校は、定員をほぼ満たしているのに1学級減となっている。これに対し、黒沢尻工業高校と福岡工業高校は定員割れをしているが学級減となっていない。普通学科を志望するのであれば私立高校もあるが、私立高校に工業系学科はない。なぜ、盛岡工業高校の学級減を行うのか理由を伺いたい。

【県教委】

- ・ 今後の中学校卒業予定者の減少を考慮し、さらに、ブロックにおける普通科と専門学科のバランスも勘案した上で検討したものである。黒沢尻工業高校のある中部ブロックは、4学級減と全体の学級減が少なかったこと、福岡工業高校については、二戸ブロック内の普通科と専門学科のバランスを考慮したものである。

【富岡 紫波町商工会 副会長】

- ・ 専門高校を希望する生徒は、将来の目的意識がはっきりしている。定員割れをしていない専門高校の学級減は慎重に検討してもらいたい。

【平澤 岩手町教育委員会 教育長】

- ・ 他地域への通学が極端に困難な場合、地域における学びの機会を保障するために、特例として1学年1学級を最低規模として維持しますとあるが、この極端に困難という考え方はどういうものか。
- ・ 望ましい学校規模を原則1学年4～6学級程度としているが、盛岡第一高校は7学級である。この理由は何か。

【県教委】

- ・ 通学が極端に困難な場合とは、現在の高校までの移動が乗り継ぎを含め、公共交通機関を利用して概ね1時間程度かかること、生徒の自宅から高校まで1時間半以上かかると予想される地区にある高校ということを示している。
- ・ 望ましい学校規模については、「原則」や「程度」を加え、学校規模に幅を持たせている。盛岡第一高校については理数科を設置していること等も考慮し現状の学級数としているところである。

(次頁に続く)

【杉本 盛岡市中学校長会 会長】

- ・ 併設型中高一貫教育校の今後の方向性はどのようになるのか。

【県教委】

- ・ 併設型中高一貫教育については、再編計画案の 11 ページに記載しているとおおり、最初の附属中学校の入学者が高校を卒業したところであり、6年間を通じた教育課程とキャリア教育の充実により、生徒の進路目標を概ね達成している。引き続き成果と課題を検証しながら、今後の進路等の状況も確認した上で、具体的な方向を検討したい。

【平澤 岩手町教育委員会 教育長】

- ・ 今後の高等学校教育の基本的方向には、「1学級の定員について、特定の地域における独自の基準等様々な視点から検討を行っていく」とあったが、今回の再編計画案には記載が無くなっている。その理由は何か。

【県教委】

- ・ 1学級の定員については、「今後の高等学校教育の基本的方向」の考え方に基づいて検討してきたものではある。しかし、現在の復興加配がいつまで続くか分からないこと、1学級の定員を少なくした場合、国からの財源措置が減額され、復興を進めている中で県独自の財源措置が難しいこと等を考慮し、また、県北沿岸では実質少人数学級となっていることもあり、少人数学級よりも習熟度別指導等の少人数指導を充実させていくことを考え、このようにしたものである。国に対しての要望は引き続き行い、「今後の状況に変化があれば少人数学級の配置をあらためて検討する」と記載している。

【県教委】

- ・ 35人学級の導入については、県教委でも義務教育において何とか拡大できないか、市町村教育委員会の御協力をいただきながら文科省はじめ要望を続けているところである。
- ・ 高校再編は、教育の質を保証していくことが出発点である。様々な意見を伺った中で、教育の機会と質をいかに保つかということで示した案である。
- ・ 魅力ある学校づくりについては、現在でも各学校で精一杯行っていることを御理解いただきたい。今後、生徒数が減っていく中で、さらに高校の魅力を高めていくためには、地域の皆様の協力が益々必要になってくると考えている。